



2024年8月8日

各位

会社名 セーラー万年筆株式会社
 代表者名 代表取締役社長 町 克哉
 (コード番号 7992 東証スタンダード市場)
 問合せ先 常務取締役 木村 孝
 (TEL 03-6670-6601)

2024年12月期第2四半期(中間期)業績予想と実績との差異に関するお知らせ
 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

2024年2月14日に公表いたしました2024年12月期第2四半期(中間期)業績予想と本日公表の実績値との間に差異が生じたので下記の通りお知らせいたします。また、最近の業績動向を踏まえ、2024年12月期通期業績予想を修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

2024年12月期第2四半期(中間期)連結業績予想と実績値との差異(2024年1月1日~2024年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	2,412	0	0	△8	△0.27
今回実績 (B)	2,094	△280	△220	△244	△8.26
増減額 (B - A)	△318	△280	△220	△236	—
増減率 (%)	△13.2	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2023年12月期第2四半期 (中間期))	2,159	△196	△177	△197	△6.66

2024年12月期通期連結業績予想の修正(2024年1月1日~2024年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	5,100	0	0	△15	△0.51
今回修正予想 (B)	4,655	△346	△290	△322	△10.84
増減額 (B - A)	△445	△346	△290	△307	—
増減率 (%)	△8.7	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2023年12月期)	4,558	△341	△329	△1,509	△50.94

●業績予想と実績との差異並びに業績予想修正の理由

文具事業につきましては、国内市場向けの売上高は昨年に対して堅調に推移したものの、海外市場向けの売上高は、コロナ鎮静化による巣ごもり需要の消滅、インフレによる嗜好品消費の縮小で大きく落ち込んだ結果、売上高 15 億 1 千 9 百万円 (前年同期比 3.6%減) となりました。利益面についても、売上高が減少したことによる固定費率の上昇と、金地金を中心とした原材料の高騰による製造原価率の上昇により、セグメント損失 1 億 5 千 6 百万円 (前年同期セグメント損失 7 千 5 百万円) となりました。またロボット機器事業につきましては、前期からの受注低迷が継続し、売上高 5 億 7 千 5 百万円 (前年同期比 1.4%減) で微減となり、利益面についても売上高同様に、セグメント損失 1 億 2 千 3 百万円 (前年同期セグメント損失 1 億 2 千万円) となりました。この結果、当中間連結会計期間の売上高は 20 億 9 千 4 百万円となり、期初業績予想に対し 13.2%の減少、営業損失 2 億 8 千万円 (前年同期営業損失 1 億 9 千 6 百万円) となりました。

これらの状況を踏まえ、2024年12月期通期連結業績予想に関しましては、文具事業は、高騰が続く金地金への対応策として、一部製品の値上げや仕様の見直しを行うことと共に、販売実績が堅調である海外市場における高付加価値万年筆や、金を使用していない、機能性・デザイン性を重視した万年筆新製品の販売強化を行うことによる収益回復を見込んでおり、下期後半では利益回復の見通しですが、通期では営業損失拡大を想定しております。ロボット機器事業においては、近年続いている受注不振から、下期に向けて受注回復の兆しが見えてきており、文具事業と同様に下期後半では利益回復の見通しですが、通期では営業損失拡大を想定しております。

以上より、当年度通期連結の売上高業績予想額は、46億5千5百万円（前回予想比8.7%減）、営業損失3億4千6百万円（前回予想営業利益0百万円）、経常損失2億9千万円（前回予想経常利益0百万円）、親会社株主に帰属する当期純損失3億2千2百万円（前回予想損失1千5百万円）に修正いたします。

（注）この資料に記載しております業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上